

静岡県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン

アクションプランの充電器設置の目標300基を1年前倒しで達成したことから目標を500基に変更。その差200基をビジョンでの設置目標に設定。舗装道路延長の概ね25kmごとに1基の割合での設置を見込む。

世界遺産登録の夏開催「富士山EVフェスタ」でEVの可能性と県内企業の底力を情報発信



環境に優しいEV等の普及を促そうと、世界遺産に登録された富士山で8月1日に行われた「富士山EVフェスタ」。全国からEV・PHVなど35台が富士山パレードに参加。イベント会場では地元企業のユニークな小型EV等が披露された



- 1 静岡のJリーグチーム「清水エスパルス」もエコ運動に積極的。三菱アイムーフのラッピング車をチーム公用車とし、ホームゲーム等で展示
- 2 タジマモーターコーポレーションの「超小型モビリティ」
- 3 浜松工業技術センターでは日産リーフを1台分解展示した「次世代自動車ライブライナー」を無料公開
- 4 軸受け大手NTNが手がけるインホールモーターの試作車は、その場での方向転換が可能

現状

Condition

充電インフラ整備は着々
2012年度末でEV1645台、PHV450台、電動二輪車を含めた合計約3143台。充電インフラは2013年7月末で急速充電器82基、普通充電器269基の計351基。修正目標へはビジョン活用が鍵を握る。

目標

Target

めざす目標は富士山級
アクションプランでのEV・PHV導入目標は、富士山の高さにちなんだ3776台(電動二輪車を含む)。充電インフラについては当初目標300基を達成したため、現在は500基に上方修正(ともに一般開放分のみ)。

東西の大動脈を有する交通の要衝で、全国有数の「ものづくり県」の静岡。EVでの低炭素なまちづくりと産業振興の両立が、未来に向けてのポイントだ。

EV普及への県の取り組みは積極的で、充電インフラは目標を1年前倒しで達成。その背景にはNEXCO中日本の急速充電器整備や、PISネットワークによる普通充電器の設置推進など、民間活力に恵まれた面もある。今後はさらに、神奈川県などからEVで観光に訪れる方の利用が多い伊豆の東海岸でも、今年度充電インフラを充実させる

富士山五合目富士宮口までの標高差900m・約16kmの上り坂を35台が約40分で走破し、EVの登はん力や静粛性などを証明。同パレードには県内企業が開発した小型EVや県産品の電動二輪車も参加。さらにEV展示・試乗会には地元企業11社と1大学が参加。小型EVやコンバートEV、電動二輪車などが体験でき、地場産業の底力と企業連携の可能性を感じさせる機会となつた。

NTNの「インホールモーター」や、タジマモーターコーポレーションの「コンバートEV」「超小型モビリティ」など、地元企業の新産業創出の意欲は高い。県も「次世代自動車ライブライナー」などユニークで実用的な方法で、地元企業の活動を支援している。

今後の展望

Vision

次世代自動車への対応は急務
ガソリン車の部品下請け企業が多いため、次世代自動車への技術力の醸成が急務。県も充電インフラ整備などの環境づくりを進めつつ、産業振興や雇用確保の面からも後方支援を続けることが重要と考えている。

User's eye

利用者の視点

県内技術の今を知る機会
富士山五合目まで走るパレードや展示・試乗を通じ、「EVは上り坂に強く、静かなので鳥のさえずりも聞こえた」との反響があったほか、超小型モビリティやインホールモーターなど県内企業の技術力に驚く人が多かった。